

泌尿器科疾患の治療拠点として札幌の手稲区をカバーする医療法人社団伸孝会 ていね泌尿器科(鈴木伸和理事長)。さる6月1日、同クリニックの分院となる「ていね駅前泌尿器科」(砂押研一院長)がJR手稲駅前にオープンした。近年、増え続けている外来患者のニーズに応え、混雑緩和を図ると同時に利便性を高めることが大きな狙いだ。同駅南口に隣接する複合ビル「手稲駅前プラザ南」の医療モール「メディカルスクエア手稲」で診療を開始したサテライトクリニックでは本院と患者情報を共有。ドクター同士が連携して治療に万全を期していく体制となっている。アクセス環境が良好な「ていね駅前泌尿器科」を立ち上げた伸孝会の取り組みをレポートする。

ていね泌尿器科がJR手稲駅前にサテライトクリニックをオープン



「ていね駅前泌尿器科」の院長に就任し意欲を見せる砂押医師

外来部門の混雑緩和を図り利便性を高めるサテライト

JR手稲駅南口から徒歩1分という好条件で、アクセス環境が抜群な「手稲駅前プラザ南ビル」。医療法人社団伸孝会が開設し、6月初日から診療が始まっているサテライトクリニック「ていね駅前泌尿器科」は、同ビルの医療モール「メディカルスクエア手稲」2階にある。

院長を務めるのは2009年に「ていね泌尿器科」に入職し、副院長を務めていた若手のホープ砂押研一医師(43)だ。

「私が本院に採用されてから6年が経ちますが、近年は手稲溪仁会病院などからの紹介が加わるなど、年を追う毎に患者さんの増加を実感していました。この中で鈴木理事長と竹田孝一院長、私の3人で外来診療に当たっていたわけですが、スペース的な限界もあり、どうしても待ち時間が長くなってしまっていた。高齢化に伴い年配の患者さんが多くなっている事情のなかでクルマ利用以外の方々に不便をおかけしている状況も改善する必要がありました」(砂押院長)

そんな折りにJR手稲駅前に医療モールができるという話が持ち込まれ、鈴木理事長が今回のサテライトの開設を決断したというわけだ。

1997年に鈴木理事長が竹田医師とタッグを組んでオープンした「ていね泌尿器科」は19床の有床診療所ながら手稲区唯一の専門クリニックとして、外来をはじめ手術や入院、透析治療に当たってきた。

前立腺肥大症や尿管結石、膀胱炎といった泌尿器科疾患はもちろん日本性機能学会評議員である鈴木理事長が勃起障害(ED)治療にも対応。近年は砂押医師の入職を得て医師3人体制となりマンパワーの充実を図ったが、診察室が2つしかなく現地の増築が困難なことから施設の狭さが課題になっていた。

「拠点病院が難度の高い疾患の治療にシフトしていく中で、地域で泌尿器分野のプライマリケア(初期診療)を担う当クリニックの役割は相対的に大きくなっています。この責任を果たすために増え続ける患者さんの需要や利便性を考えて外来部門を分散させることにしたのです」(鈴木理事長)

患者目線による「ていね駅前泌尿

対応し利便性を高めた「ていね駅前泌尿器科」

患者増に外来専門

器科」の開設。今回のサテライトのオープンがこれまで本院に通うのに時間がかかっていた手稲駅周辺の患者にとって大きな朗報となったのは言うまでもない。

患者の情報を共有して今後チーム医療を実践

本院と「ていね駅前泌尿器科」の連携はどうか。

「基本的に当院は外来対応と簡単な検査がメイン。本院は従来どおり外来のほかCTなどを駆使した高度な検査、手術や入院、透析治療を担うことになりました。この中で重要なのは、患者さんの情報の共有化とチーム医療の実践です」(砂押院長)

この観点に立って今回、取り組み



診察室では本院のカルテも即座に確認できる

のがタタラフィルという名の薬剤です(鈴木理事長)
この新薬はアルファワン遮断薬と同様に尿道や前立腺部の緊張を緩めるだけではなく、頻尿や尿意切迫感の症状改善、骨盤内血流の改善、前立腺の炎症や繊維化の抑制にも有用と言われている。このため今後は前立腺肥大症の排尿障害に対して第



20年近くにわたり地域医療に取り組んできた「ていね泌尿器科」



鈴木理事長とタッグを組む「ていね泌尿器科」の竹田院長



患者目線でサテライトの開設を決定した鈴木理事長



医療法人社団 伸孝会

ていね駅前泌尿器科

札幌市手稲区手稲本町1条3丁目3-1メディカルスクエア手稲2階
☎ 011-686-6600

一選択薬となっていくことが期待されているという。
「とはいえ、薬物療法だけでは十分な効果が得られない前立腺肥大症もあります。当院では手術にも積極的に取り組んでおり、症例に応じて標準的な手技である経尿道的前立腺切除術をはじめ先進的な各種の経尿道的核出術も手がけています。気になる方は専門の医療機関へ早めに受診

することを勧めます(鈴木理事長)
◆ 医療法人のトップとして2つのクリニックを統括する鈴木理事長、ていね泌尿器科を預かる竹田院長、そして新しいサテライト「ていね駅前泌尿器科」を任された砂押院長。この3名の医師によるタッグこそが伸孝会の大きな強みと言える。
分院開設というハードの展開を踏

まえ、伸孝会では新たな医療スタッフの整備にも乗り出しており、今後はさらなるパワーアップが期待できそう。
いわゆる「おしっここの悩み」をはじめ尿管結石、膀胱がんや前立腺がん、さらには透析や性感染症まで泌尿器科関連の疾患は幅広い。この中で身近なかつつけクリニックとして20年近く地域医療に貢献してきた「ていね泌尿器科」の新たな展開に注目していきたい。



「ていね駅前泌尿器科」は同ビル2階の医療モールに入居する



JR 函館本線手稲駅に隣接する手稲駅前プラザ南

れたのが両クリニックにおける情報のオンライン化だ。以前、本院に通っていた患者が「ていね駅前泌尿器科」に移っても、本人のそれまでのカルテを診察室のパソコン上で確認できるようにしている。「ていね駅前泌尿器科」の新患についても同様に本院でチェックが可能だ。
「チームワークの良さが伸孝会の特徴だと思います。入職以来、鈴木理事長と竹田院長に指導していただきながら、いつも3人でカルテや診断画像を確認して治療方針を話し合ってきました。それぞれを補い合い、患者さんにとって最善の対応を考えてきた自負が私たちにはあります。2つのクリニックとなったこれからもそういう姿勢は変わらないと思います(同)

外来対応が中心とはいえ「ていね駅前泌尿器科」では超音波検査や内視鏡検査は可能。膀胱がんや前立腺がんが手術を受けた場合の定期的な検診にも対応していく予定だ。当面の間は午前中のみ診療だが、泌尿器科関係のかかりつけのクリニックとして気軽に受診できるほか、本院や他の病院で治療を受けた患者の予約についてもフォローが期待できそうだ。
前立腺肥大症の排尿障害を改善させる新薬治療を開始
伸孝会として取り組んでいる最近のトピックについても触れておこう。そのひとつがこのほど保険適応となった治療薬、ホスホジエステラー

「これに対してPDE5阻害薬は、もともと勃起障害の治療薬として開発されたもの。その後、前立腺肥大症に伴う排尿障害とEDには共通の発症要素があることが分かり、前立腺肥大症の治療としてPDE5阻害薬が応用できないか模索されてきた経緯があります。そしてようやく我が国で承認され、保険適応となった



通常の使用で尿量が測定出来るトイレを完備



外来対応がメインだが泌尿器関係の基本的な検査も可能だ(写真は超音波検査装置)



内視鏡装置は最新器機を導入